

RISTの思い出

熊本大学 名誉教授
RIST相談役(元会長)

柏木 潤



RISTができたころの話であるが、あるとき山田仁穂先生から「今度、立石電機の立石会長の肝いりで、熊本に計測制御に関する産学官連携の研究会ができそうだ」という話を聞いて、これは面白そうだなあとと思って早速参加した。当時私は熊本機械工学科で計測制御という講座を担当していたからである。

熊本における産学官のいろいろな方々と知り合いになれて、大変面白かった。いろいろな雑談や相談をしているうちに、共同研究に発展した例もあって、工学というのは、こうでなければならないとさえ思ったのである。とくにありがたかったのは、なかなか熊本にきていただけないような有名な先生方をお招きして、特別講演や座談会を開催して情報交換できたことである。熊本の産学官の方々も大いに刺激を受けたことと思われる。このような企画を計画された当時の幹事の方々に敬意を表したい。

工学の研究に長いこと携わってきた経験から推定すると、このような研究会が継続的に発展していくために何が重要かという、「目標をしっかり持って、あきらめないこと」ではないかと思う。

私の恩師である東京大学の磯部孝先生のお言葉を引用すると、「どうしても実現したいと思うこ

とは、何が何でもしがみつく。労苦は別にして、やがてそれが実現していることに気が付く」とおっしゃっていたのを覚えている。やはり、あきらめないことが大切と思う。

そして目標に向かって種々の情報を収集することである。その意味で、RISTが開催する種々の研究会は、情報の宝庫であり、それらの中に必ずやヒントになるものが入っていると思われる。研究会などに参加することが重要であるということである。

最近の傾向として、AI(人工知能)に注目が集まっているが、我々の日常生活でもAIがどんどん入ってきて、AIなしには生きられないような世界が近づいてきているように思われる。実際、市販されているAIスピーカーは、おもちゃではあるが、なかなか面白い。産業界もAIの導入なしには成り立たないようになるかもしれない。いかに上手にAIを導入して、スマートファクトリーを実現するかが今後の産業界の発展にとって極めて重要な要素になるのではないかと思う。RISTもこの方面に力を入れるといいように思う。

最後に、RISTが今後ともますます発展して、産学官連携の成果を上げて、熊本におけるこの分野の興隆に大きく貢献することを祈念しています。